

2016年6月14日

浅井基文

## 1. 最近の中国内外情勢

(1) 最近の中国の政治状況(習近平政権になって変化があるか)、軍事費の伸びや「海洋政策」をどう考えるべきか。

### 一 習近平政権と中国の政治情勢

\* 習近平政権になってからの変化

\*\* 外交：大国としての矜持と責任意識

\*\*\* 「大国」に関する認識・受けとめ方について

\*\*\*\* 日本(私たちのイメージする「大国」と安倍政権が目指す「大国」)

\*\*\*\* 中国(事実認識としての「大国」、国際関係で特別な責任を伴う「大国」)

\*\*\* 大国としての矜持

\*\*\*\* 「新型国際関係」の提唱：アメリカ主導のパワー・ポリティクスに代わる  
国際関係(国家主権の対等平等性、内政不干涉、内政不干涉、共存共贏、国際法重視)構築

\*\*\*\* 南シナ海問題での原則堅持→PP1&2

\*\*\* 大国としての責任意識

\*\*\*\* 国連安保理常任理事国としてのアメリカの暴走チェック

\*\*\*\* 上海協力機構による地域的安全保障システムの構築

\*\*\*\* 地域紛争・問題の解決に対する積極的関与(朝鮮半島非核化、アフガニスタン和平問題、イラン核問題)

\*\*\*\* 国際経済の安定的発展に対する指導力発揮(「一带一路」、アジア投資銀行、G20、BRICS)

\*\* 内政：高度成長推進路線から均衡発展路線への転換→PP3

\*\*\* 「社会主義市場経済」の原則堅持と各論的取り組みの深化(財政金融政策、社会保障政策、政府と市場の役割分担に関する模索)

\*\*\* 高度成長時代のひずみ・問題に対する取り組み(環境汚染、地域格差拡大、弱者対策、貧困解消)

### 一 軍事費の伸びをどう理解するか

\* 極めて低レベルからの出発

- \* 経済高度成長による自然増→PP4
- \* アメリカに対する軍事的備え→PP5&6

## 一 「海洋政策」をどう理解するか

- \* アメリカの主張する「航行の自由」と国際法上の「航行の自由」の違い
- \* 中国の海洋政策
  - \*\* 経済のグローバル化に伴う関心の増大
  - \*\* 南シナ海問題に関する立場
    - \*\*\* 歴史的根拠
    - \*\*\* 法的根拠→PP1（沿岸国の領有権主張が始まったのは1970年代以後）
    - \*\*\* 問題点：いわゆる九段線の法的性格に関する法的立場を明確にしていないこと
- \* 日本に発言権はない。
  - \*\* サンフランシスコ対日平和条約→関連資料2 参
  - \*\* 日華平和条約→関連資料3
- \* 日本人の対中認識における問題
  - \*\* 日本人の対中感情→関連資料4 及び PP7
  - \*\* 「中国脅威論」を助長する潜在的意識の働き
    - \*\*\* 日本人の国際観：天動説（自己中心主義）
      - \*\*\*\* 普遍（モノサシ）がないため自らを客体視できない→「個」の意識を育みにくい。
        - 「個」の意識がなければ、他者感覚（他者を他者として他者の内側から見る目）が育まれず、「ウチ」（結束・馴れ合い）「ソト」（敵対・排除）意識に支配される。
        - 相手が強ければペコペコし（対米追随）、弱ければ見下す（アジア蔑視）。
      - \*\*\*\* 1945年以後日本を支配してきたアメリカは筋金入りの天動説国際観の持ち主である。
      - \*\*\*\* 日本人（支配層）は、5世紀ごろから日本中心の「小中華」世界観を持つようになった（西嶋定生、上田正昭）。
    - \*\*\* 日本人の「根無し草」的対中感情を生み出す要素
      - \*\*\*\* 対等平等の歴史を知らない日中関係（→日中の対等平等性の承認）
      - \*\*\*\* 対中認識を妨げる要素
        - \*\*\*\*\* 互いに「異」である日中（→相互の異質性を承認する必要性）
        - \*\*\*\*\* 明治以来の牢固とした対中優越感（→現実を直視する必要性）
        - \*\*\*\*\* 「大国」中国への違和感
          - \*\*\*\*\* 国民一般（→「大国＝大国主義」と受けとめる意識を清算する必要性）

- \*\*\*\*\*保守政治（→ゼロ・サム的権力政治の発想を清算する必要性）
- \*\*\*\*\*欧米的「色眼鏡」（→多角的視点を養う必要性）
- \*\*\*\*\*私たちの理解を超える中国の歩みの独自性（→他者感覚を身につける必要性）

## (2) 中国の経済成長（鈍化したと言われてはいますが）と安全保障政策との関係について

### 一中国の経済情勢と習近平政権の経済政策

- \* 中国の経済情勢・政策に関しては 1 (1) 参照
- \* 日本で流布される「問題だらけの中国経済」というイメージのおかしさ→関連資料 4
- \* IMF の中国経済に関する評価：2015 年 11 月 30 日、2016 年 10 月から人民元を SDR 構成通貨として採用する決定（人民元がドル（構成比率 41.73%）、ユーロ（同 30.93%）に次ぎ、新たに 10.92%の比率で入り、円（8.33%）、ポンド（8.09%）をいきなり上回る）

一中国における経済政策と安全保障政策との関連性：日本の高度経済成長期との平行性から分かること→PP3&4

### (3) 台湾との関係、なかでも台湾総統選の与える影響など。

(注：「米中国交樹立以降の米中間の基本的な合意内容・コミュニケ(1972. 2、1979. 1、1982. 8)を踏まえて理解したい。」は、下記(4)にあったものを本項に移動)

#### 一米中関係における台湾問題

- \* 1972 年米中共同声明(上海コミュニケ)→関連資料 5
- \* 1979 年国交樹立共同声明→関連資料 6
- \* 1982 共同声明→関連資料 7

#### 一日中関係における台湾問題

- \* 日米安保条約の極東条項→関連資料 8
- \* 日中共同声明の台湾条項→関連資料 9

一 中台関係の推移→PP8

#### 一 蔡英文政権と中台関係

- \* 経済的要因
- \*\* 中台経済関係の台湾経済に対する比重→PP9

\*\*蔡英文政権誕生の背景→関連資料 10

\* 政治的要因

\*\*米日の後ろ盾を期待する蔡英文

\*\*米中確執という枠組みのもとにある中台関係

\*\*日本の親台勢力の動き

(4) アメリカの対アジア政策（二正面作戦の放棄やリバランス政策）をどう評価するか。

ーいわゆる「二正面作戦」について

\* 米ソ冷戦時代の、圧倒的経済的実力を基礎とするアメリカの基本的な世界軍事戦略

\* 米ソ冷戦の崩壊及びアメリカの経済的実力の相対的低下を背景として、見直しが進められることとなった。

ーオバマ政権のリバランス戦略

\* アジア太平洋地域の政治的経済的比重の高まりを認識したオバマ政権が 2010 年以後に打ち出したアジア重視戦略

\* 経済における TPP 推進と軍事における APR への重点シフト

\* リバランス戦略の中心に座る中国

\*\*相互依存を深める米中経済関係

\*\*中国の台頭を「潜在的脅威」と捉えるアメリカの伝統的パワー・ポリティックスの発想

\*\*矛盾の当面の焦点としての南シナ海問題

2. 国際的視点のもとでの憲法問題

(5) 対米・対中関係を踏まえた憲法 9 条の戦後史的な意義について。

ーポツダム宣言と憲法 9 条

\* ポツダム宣言→関連資料 11

\* 米中（英ソ）共同の対日政策と戦後アジア秩序のあり方に関するブルー・プリント

\* 憲法 9 条：ポツダム宣言が示した降伏条件の履行

\*\*昭和天皇の終戦詔書→関連資料 12

\*\*降伏文書→関連資料 13

\* 領土問題：ポツダム宣言 8 項→関連資料 11

ーアメリカの対アジア戦略と憲法 9 条

- \* 米ソ冷戦の本格化とアメリカの対日政策の転換
- \* 再軍備と解釈改憲による憲法 9 条の「空洞化」プロセスの開始
- \* サンフランシスコ体制と憲法 9 条
  - \*\* サンフランシスコ体制：対日平和条約＋日米安保条約＋日華平和条約（＋日韓基本関係条約）
  - \*\* 「解釈改憲」の進行（拙著『すっきり！わかる集団的自衛権 Q&A』 pp124-137 参照）
    - \*\*\* 「後方支援」と「後方地域支援」
    - \*\*\* 「武力行使との一体化」の有無
    - \*\*\* 「海外派兵」と「海外派遣」
    - \*\*\* 「戦闘地域」と「非戦闘地域」

#### 一 米中和解・日中国交正常化と憲法 9 条

- \* 中国の日米安保条約に対する立場の実質的修正
- \* 留意点：米中及び日中関係が対立的になることによって、中国の上記立場は再び元に戻る。

#### 一 湾岸戦争後の東アジア情勢と憲法 9 条

- \* 「北朝鮮核疑惑」（1993-94）とナイ・イニシアティヴ→周辺事態法
- \* （対テロ戦争→有事法制）
- \* 「中国脅威論」→集団的自衛権行使「合憲」閣議決定と安保法制強行

(6) 集団的自衛権行使容認の閣議決定、安保法制成立・施行をどのようにとらえるか、東アジアに与える影響について。

#### 一 閣議決定・安保法制の本質

- \* 解釈改憲による憲法 9 条の「空洞化」プロセスの最終段階
- \* 条約改正手続きを踏まない日米軍事同盟体制の完成
- \* アメリカの世界軍事戦略に対する全面的加担

#### 一 日米軍事同盟と東アジア情勢

- \* 集団的自衛権の行使を容認する閣議決定（2014 年 7 月 1 日）
  - \*\* 武力攻撃に至らない侵害への対処：「米軍部隊に対して攻撃が発生し、それが状況によっては武力攻撃にまで拡大していくような事態においても、自衛隊と米軍が緊密に連携して切れ目のない対応をすることが、我が国の安全の確保にとっても重要である。自衛隊と米軍部隊が連携して行う平素からの各種活動に際して、**米軍部隊に対して武力攻撃に至らない侵害が発生した場合**を想定し、…米国の要請又は同意が

あることを前提に、…必要最小限の「武器の使用」を自衛隊が行うことができるよう、法整備をすることとする。」(1 (4))

\*\*同盟国に対する武力攻撃への対処：「我が国に対する武力攻撃が発生した場合のみならず、我が国と密接な関係にある他国に対する武力攻撃が発生し、これにより我が国の存立が脅かされ、国民の生命、自由及び幸福追求の権利が根底から覆される明白な危険がある場合において、これを排除し、我が国の存立を全うし、国民を守るために他に適当な手段がないときに、必要最小限度の実力を行使する…」(3 (3))

\*「尖閣有事」：閣議決定1(4)のケース

\*「台湾有事」「朝鮮半島有事」「南シナ海有事」：閣議決定3(3)のケース

(7) オバマ大統領の広島訪問をどう評価するか、核廃絶への米中の動きについて。

#### 一 広島・長崎に対する原爆投下

\*戦争そのものの「正当性」と戦争遂行手段の「不当性」

\*大量破壊兵器の国際的違法化と「核デタランス」正当化論

#### 一 「非核三原則」と「核の傘」

\*国民的反核感情の結晶としての「非核三原則」

\*アメリカの拡大核デタランス戦略と日米安保体制

\*日本人の「いい加減さ」を世界に露呈する2つの問題の一つ(今一つは「憲法も安保も」)

#### 一 「プラハ演説」と「広島演説」

\*オバマの思想的一貫性の産物

\*\*ビジョンとしての「核のない世界へ」

\*\*「自分の生きている間の世界の非核化はないだろう」

\*\*政策としての核固執戦略(ミサイル防衛)

\*広島演説

\*\*日米軍事同盟の変質強化の完成を記念するセレモニー

\*\*「核なき世界」に結びつけるのは幻想

#### 一 問われる私たちの対米認識

\*日本人の対米感情→PP10

\*安保法制反対運動及びオバマ広島訪問に共通する問題：アメリカに対する批判的認識の欠落

(8) 現在の北朝鮮(金正恩体制)をどう見るか

## 一 「北朝鮮脅威論」に関する各国の見方

- \* 日本＞韓国＞アメリカ＞中国
  - \*\* 「日本＞韓国」という異常性
  - \*\* アメリカ：「潜在的中国脅威論」の隠れ蓑としての朝鮮の利用→PP11
- \* 中国
  - \*\* 朝鮮の核実験が中国東北地方に対して及ぼす環境的影響に対する懸念
  - \*\* NPT 体制堅持という立場からの取り組み
  - \*\* 李洙墉（リスヨン）訪中
  - \*\* 6者協議再開による外交的問題解決
- \* 問題の本質：「北朝鮮脅威論」は「作り話」
  - \*\* ライオン（米）・トラ（日）・オオカミ（韓）に包囲されたハリネズミ（朝）
  - \*\* 米韓の戦争シナリオにはもはや朝鮮の攻撃によって開始されるシナリオはない。

## 一金正恩体制の「並進路線」

- \* 言行一致のみが朝鮮の生き延びる唯一の可能性であること
  - \*\* 言行不一致は直ちに破滅（アメリカによる軍事行動発動）に直結する。
  - \*\* 朝鮮の「挑発」云々は完全に事実に反する（挑発してきたのは米韓）。
  - \*\* 朝鮮労働党第7回大会で確認された並進路線
- \* 核兵器開発路線堅持
  - \*\* アメリカの一貫した核恫喝政策に対する「ハリネズミ」的対応
  - \*\* 先制攻撃を織り込んだ米韓の対朝鮮軍事戦略
    - \*\*\* アメリカの「おあつらえデタランス」(tailored deterrence)戦略(2006年)
    - \*\*\* 韓国の積極デタランス戦略(2010年)
    - \*\*\* 韓米共同局地挑発作戦計画(2013年)
  - \*\* 2015年「8月危機」の教訓
- \* 経済建設路線堅持
  - \*\*\* 金正恩体制のもとでの堅実な経済成長
  - \*\*\* 至上課題：国際制裁の重圧からの脱却
  - \*\*\* 外資(特に韓国資本、中国朝鮮族資本及び在日朝鮮人資本)に対する期待